

**Ⅱ 平成 25 年度 厚生労働省保健指導支援事業  
保健指導技術開発事業 実施報告**



## Ⅱ 平成 25 年度 厚生労働省保健指導支援事業 保健指導技術開発事業 実施報告

### 1. 背景/目的/目標

#### 1) 背景

現在、保健師の保健指導技術の獲得及び保健指導の質の確保は、引き続き重要な課題とされる。平成 25 年 4 月からの特定健診・特定保健指導にかかわる制度見直しでは、「標準的な健診・保健指導プログラム」が改訂された。なかでも、「保健指導の実施者は、対象者の身体の状態、背景、価値観等に配慮しつつ、行動変容に確実に繋がるような支援ができる能力を獲得する必要がある」と明記され、生活習慣病予防の行動変容につながる保健指導技術の獲得、そのような実践力を有する人材の育成は、引き続き重要な課題とされている。

近年増加しつつある個別性の高い複雑な事例や支援困難な事例に対応するためにも、適切なアセスメントのもと、効果的に保健指導に臨む必要がある。しかし、そういった保健指導支援技術を習得する方略は、OJT としての意味合いが強く、保健師個々の経験に委ねられている場合が多い。日頃の業務の中で実施でき、かつ、個別事例を通して保健師のアセスメント技術等を高め、活動に活かすことのできる事例検討会は、OJT として重要な位置づけとなると考えた。

そこで、厚生労働省保健指導支援事業保健指導技術開発事業として、事例検討会の開催のあり方や、その手法を開発し、保健指導技術の獲得ならびに保健指導の質の確保に寄与することとした。

#### 2) 目的

保健師の保健指導技術の獲得および保健指導の質の確保のために、効果的な事例検討会の手法を開発する。

#### 3) 目標

開発した事例検討会の手法を活用することにより、保健指導実施者（保健師）が、

- ・アセスメント技術を習得できる。
- ・保健師間でお互いの保健指導の実践が確認できる。
- ・根拠に基づく新たな支援計画が策定できる。
- ・新たな支援計画に基づいて、保健活動実践ができる。

## 2. 実施内容

### 1) “実践力アップ事例検討会”（案）の作成

#### (1) 文献検索

日本看護協会図書館に所蔵されている文献について、「事例検討会」「事例検討会，保健師」で検索した。検索結果は以下の通り（平成 25 年 6 月末時点）。その中で、事例検討会の手法や効果、ファシリテーターの役割等について記述のある文献を概観した。

検索ワード	件数
事例検討会	10 件
事例検討会，保健師	190 件

事例検討会の準備や設定として、主に、グループ人数の設定、検討時間の確保、グラウンドルールの設定、板書の活用について記述があった。事例検討会の内容については、具体的な対策の検討、検討結果に優先順位をつけること、感想の共有、守秘義務の確認などの記述があり、その他、参加者の発言の留意点等の記述も見られた。事例検討会の手順を示すものもあったが、検討内容を支援者の捉え方や支援内容とするものもあり、手順の中でアセスメントについて記載のあるものは極わずかであった。

事例検討会の効果として、事例提供者がエンパワメントされる、安心感や連帯感がある、新たな気づきを得られる、視野が広がる、自己の課題や傾向が明確になる、スキルアップになる等の記述があった。また、ファシリテーターの役割については、主に、相互作用を促すこと、自由な発言を保証すること、意見を引き出すこと、傾聴すること、話題を投げかけること等の記述があった。

これらの文献内容を参考として、“実践力アップ事例検討会”（案）を作成した。その他、地域包括支援センター業務マニュアル<sup>\*</sup>や、インシデントプロセス法も参考にした。

※平成 21 年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）事業報告書（H22.3 財団法人長寿者開発センターp243-247 の地域ケア会議の開催）

#### (2) 会議開催

有識者（P74 参照）からご意見を伺い検討することを目的とし、会議を開催した（平成 25 年 8 月 19 日）。“実践力アップ事例検討会”の説明及び、その手法を用いたデモンストレーションを行い検討した。検討結果を受け、“実践力アップ事例検討会”（案）を精練した。

### 2) “実践力アップ事例検討会”の試行

#### (1) 試行団体の募集

行政分野や産業分野を含め、全国から試行団体の公募を行った（公募期間：平成 25 年 7 月 1 日～7 月 31 日）。その結果、計 28 団体からの応募があった。想定を上回る応募数であったため、地域分布や人口規模、本事業の趣旨と応募動機との照合を考慮し、計 21 団体を選定した。また、参加区分を設定した。



< 試行団体一覧 >

No	領域	都道府県	団体名	参加区分 (A・B)
1	行政	岐阜県	岐阜県岐阜市	A
2	行政	三重県	三重県志摩市	A
3	行政	高知県	高知県安芸市	A
4	行政	佐賀県	佐賀県伊万里保健福祉事務所	A
5	産業	北海道	北海道農業団体健康保険組合	A
6	産業	東京都	全国健康保険協会 東京支部	A
7	行政	岩手県	岩手県二戸市	B
8	行政	茨城県	茨城県鉾田市	B
9	行政	茨城県	茨城県つくば市	B
10	行政	千葉県	千葉県君津健康福祉センター	B
11	行政	新潟県	新潟県南魚沼市	B
12	行政	三重県	三重県名張市	B
13	行政	三重県	三重県松阪市	B
14	行政	兵庫県	兵庫県姫路市	B
15	行政	愛媛県	愛媛県西予市	B
16	行政	高知県	高知県四万十市	B
17	行政	佐賀県	佐賀県佐賀中部保健福祉事務所	B
18	産業	宮城県	全国健康保険協会 宮城支部	B
19	産業	静岡県	静岡県農業団体健康保険組合	B
20	産業	東京都	一般財団 日本健康開発財団Jスクエア JTB東日本健康増進センター	B
21	産業	愛知県	産業保健師自主勉強会(愛知)	B

※参加区分

参加区分 A (6 団体)	参加区分 B (15 団体)
① 試行団体への説明会に参加する	① 試行団体への説明会に参加する
② 有識者を交えて、事例検討会を実施する	② 各団体独自で、事例検討会を実施する

## (2) 試行団体への説明会開催

試行団体での“実践力アップ事例検討会”の実施に向けて、全試行団体を対象とし、説明会を開催した（平成 25 年 9 月 12 日）。計 21 団体 28 名の参加があった。“実践力アップ事例検討会”のねらいや具体的な手順について説明し、その手法を用いたデモンストレーションを行った。その後、グループワークで実際に事例検討会を実施してもらい、終了後に意見交換を行った。

### ○全体の様子



### ○デモンストレーション



デモンストレーションでは、手順に沿って事例検討会を実施した。ファシリテーター、事例提供者、板書係とその他参加者の計 8 名で行った。

### ○グループワーク（事例検討会の実施）



4 グループに分かれ、グループ毎に事例検討会を実施した（各グループ 7～8 名）。領域や分野を越えて事例検討する意義を考慮しグループ分けをした。すべてのグループで同じ架空事例を使用した。

### ○意見交換の内容

有識者を交えて意見交換を行った。主に、板書の良さ（思考の整理や情報を共有できること）や、医学的なアセスメント視点の重要性についての気づきなどの意見があった。

## ○説明会後のアンケート結果

説明会終了後、参加者を対象にアンケートを実施した。内容と結果は以下の通り。

### “実践力アップ事例検討会”の内容やそのポイントの理解度等について

設問	1)「準備」について		2)STEP1について	
	理解できたか	実施できそうか	理解できたか	実施できそうか
はい	28 (100.0%)	28 (100.0%)	28 (100.0%)	28 (100.0%)
いいえ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
無回答・無効回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

設問	3)STEP2について		4)STEP3について	
	理解できたか	実施できそうか	理解できたか	実施できそうか
はい	28 (100.0%)	28 (100.0%)	27 (96.4%)	21 (75.0%)
いいえ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)	6 (21.4%)
無回答・無効回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)

設問	5)STEP4について		6)STEP5について	
	理解できたか	実施できそうか	理解できたか	実施できそうか
はい	25 (89.3%)	16 (57.1%)	26 (92.9%)	23 (82.1%)
いいえ	2 (7.1%)	9 (32.1%)	1 (3.6%)	3 (10.7%)
無回答・無効回答	1 (3.6%)	3 (10.7%)	1 (3.6%)	2 (7.1%)

設問	7)STEP6について		8)STEP7について	
	理解できたか	実施できそうか	理解できたか	実施できそうか
はい	26 (92.9%)	23 (82.1%)	26 (92.9%)	24 (85.7%)
いいえ	1 (3.6%)	3 (10.7%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)
無回答・無効回答	1 (3.6%)	2 (7.1%)	2 (7.1%)	3 (10.7%)

設問	9)「事例検討会終了後」について		10)事例提供者の役割について	
	理解できたか	実施できそうか	理解できたか	実施できそうか
はい	27 (96.4%)	26 (92.9%)	27 (96.4%)	26 (92.9%)
いいえ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
無回答・無効回答	1 (3.6%)	2 (7.1%)	1 (3.6%)	2 (7.1%)

設問	11)ファシリテーターの役割について		12)板書係の役割について	
	理解できたか	実施できそうか	理解できたか	実施できそうか
はい	26 (92.9%)	18 (64.3%)	28 (100.0%)	23 (82.1%)
いいえ	2 (7.1%)	8 (28.6%)	0 (0.0%)	2 (7.1%)
無回答・無効回答	0 (0.0%)	2 (7.1%)	0 (0.0%)	3 (10.7%)

設問	13)参加者全員の役割について		14)ホワイトボード活用例について	
	理解できたか	実施できそうか	理解できたか	実施できそうか
はい	27 (96.4%)	26 (92.9%)	28 (100.0%)	28 (100.0%)
いいえ	0 (0.0%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
無回答・無効回答	1 (3.6%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

### 参加者の保健師経験年数

年数	人数
5年未満	2
5-10年未満	5
10-20年未満	3
20-30年未満	12
30年以上	3
無回答	3

### 主な結果

- ・STEP3 情報の整理、STEP4 アセスメント、ファシリテーターの役割を実施できそうかについて、半数以上が「はい」と回答した。
- ・自由記載では、「継続してやっていきたい」「慣れていきたい」「練習が必要」などの意見があった。

### (3) 試行結果

平成 25 年 9 月～平成 26 年 1 月に 21 団体（参加区分 A：6 団体、参加区分 B：15 団体）で“実践力アップ事例検討会”を実施した。事業参加者は、事例検討会参加者 270 名（保健師 253 名、その他 17 名）、見学者 22 名（保健師 20 名、事務職 2 名）の計 292 名。

#### ○参加区分 A

No	団体名	開催日	参加者数		見学者数	有識者氏名 (敬称略)
			保健師	その他		
1	岐阜県岐阜市	平成25年11月18日(月)	28	0	1	藤尾 静枝
2	北海道農業団体健康保険組合	平成25年12月6日(金)	5	1	0	角田 智哉
3	全国健康保険協会 東京支部	平成25年12月9日(月)	5	3	1	藤尾 静枝
4	三重県志摩市	平成25年12月10日(火)	10	1	2	塚原 洋子
5	佐賀県伊万里保健福祉事務所 (佐賀県中部保健福祉事務所と合同実施)	平成25年12月10日(火)	9	0	3	立花 正一
						徳永 雅子
6	高知県安芸市	平成26年1月30日(木)	15	1	14	中板 育美

#### 【主なプログラム内容】

- ① 要旨説明
- ② 事例検討会 1 回目
- ③ 事例検討会 1 回目の感想の共有と意見交換
- ④ 事例検討会 2 回目
- ⑤ 1 回目、2 回目を通しての感想の共有と意見交換
- ⑥ 有識者を交えた意見交換
- ⑦ 実施後アンケートの記入

みなさん、前を見て熱心に検討しています。

事例検討会 2 回目には、参加者がファシリテーターを担い実施しました。



○参加区分 B

No	団体名	開催日	参加者数		見学者数
			保健師	その他	
1	岩手県二戸市	平成25年12月2日(月)	5	0	0
2	茨城県鉾田市	平成25年11月14日(木)	13	1	0
3	茨城県つくば市	平成25年11月28日(木)	9	0	0
4	千葉県君津健康福祉センター	平成25年10月15日(火)	7	0	0
5	新潟県南魚沼市	平成26年1月23日(木)	12	0	0
6	三重県名張市	平成25年9月27日(金)	13	0	0
7	三重県松阪市	平成25年10月29日(火)	6	0	0
8	兵庫県姫路市	平成25年11月-12月 (6回に分けて実施)	50	0	0
9	愛媛県西予市	平成25年11月14日(木)	6	1	1
10	高知県四万十市	平成25年12月19日(木)	11	0	0
11	佐賀県佐賀中部保健福祉事務所 (佐賀県伊万里保健福祉事務所と合同実施)	平成25年12月10日(火)	8	0	0
12	全国健康保険協会 宮城支部	平成25年11月28日(木)	17	9	0
13	静岡県農業団体健康保険組合	平成25年10月28日(月)	5	0	0
14	一般財団 日本健康開発財団Jスクエア JTB東日本健康増進センター	平成25年11月25日(月)	7	0	0
15	産業保健師自主勉強会(愛知)	平成25年12月7日(土)	12	0	0

各団体では、開催日前または事例検討会実施前に、参加者に対して“実践力アップ事例検討会”についての説明を行っていた。いくつかの団体では、県内または市内の全保健師から参加者を募り、他分野他領域の保健師や他職種（管理栄養士、事務職、運動指導士等）も含めて実施していた。また、人材育成研修の一環として実施した団体もあった。



#### (4) 試行前後の評価

“実践力アップ事例検討会”の実施前、実施直後、実施後2週間～1ヶ月後にそれぞれ評価票の記入をしてもらった。実施直後及び実施後2週間～1ヶ月後の各評価票は、事例検討会参加者270名及び見学者22名も対象とした。その結果は、次のとおり。

#### ○実施前

計280名から回答を得た。結果は以下の通り。

設問	1-1)	1-2)	1-3)
	自己事例の検討経験の有無  「事例検討会で、ご自身の担当事例を検討した経験がある」	プロセスを踏まえた事例検討会の経験有無  「[事実に基づきアセスメントし、そのアセスメントに基づいて支援目標や支援計画を決定する]というプロセスを踏まえた事例検討会を経験したことがある」	自分の担当事例のこととして考えている  「あなたは、事例提供者の事例について、自分の担当事例として考え、検討している」
回答番号	1: はい 2: いいえ	1: はい 2: いいえ	1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う
1	198 (70.7%)	144 (51.4%)	1 (0.4%)
2	82 (29.3%)	133 (47.5%)	8 (2.9%)
3	—	—	165 (58.9%)
4	—	—	101 (36.1%)
無回答	0 (0.0%)	3 (1.1%)	5 (1.8%)
合計	280 (100.0%)	280 (100.0%)	280 (100.0%)

設問	1-4)	1-5)
	学びを支援に活かしている  「あなたは、事例検討会での学びを、自分の担当事例の支援に活かし/応用している」	自身の傾向を客観的に認識している  「あなたは、事例検討会を通して、ご自身の事例の捉え方やアセスメントの傾向を、客観的に認識している」
回答番号	1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う
1	1 (0.4%)	1 (0.4%)
2	15 (5.4%)	51 (18.2%)
3	174 (62.1%)	194 (69.3%)
4	85 (30.4%)	28 (10.0%)
無回答	5 (1.8%)	6 (2.1%)
合計	280 (100.0%)	280 (100.0%)

設問	2-1)	2-2)	2-3)	2-4)
	事実と想像・印象に情報整理	事実に基づいたアセスメント	全員がアセスメントを言語化	支援目標や支援計画を決定
	「事例に関する情報を、事実と想像/印象に意識的に整理していた」	「事実に基づいてアセスメントしていた」	「参加者全員が、アセスメントを言語化していた」	「アセスメントに基づき、支援目標や具体的な支援計画を決定していた」
回答番号	1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う
1	4 (1.4%)	1 (0.4%)	7 (2.5%)	0 (0.0%)
2	91 (32.5%)	35 (12.5%)	133 (47.5%)	69 (24.6%)
3	150 (53.6%)	208 (74.3%)	116 (41.4%)	174 (62.1%)
4	28 (10.0%)	29 (10.4%)	17 (6.1%)	31 (11.1%)
無回答	7 (2.5%)	7 (2.5%)	7 (2.5%)	6 (2.1%)
合計	280 (100.0%)	280 (100.0%)	280 (100.0%)	280 (100.0%)

設問	3-1)	3-2)
	所属先	保健師経験年数
	1: 市町村 2: 都道府県(本庁/保健所) 3: 企業/健保組合 4: 地域包括支援センター(直営/委託) 5: その他	1: 5年未満 2: 5-10年未満 3: 10-20年未満 4: 20-30年未満 5: 30年以上
回答番号		
1	179 (63.9%)	58 (20.7%)
2	32 (11.4%)	43 (15.4%)
3	44 (15.7%)	73 (26.1%)
4	4 (1.4%)	75 (26.8%)
5	20 (7.1%)	28 (10.0%)
無回答	1 (0.4%)	3 (1.1%)
合計	280 (100.0%)	280 (100.0%)



### 主な結果

#### \* 1-1) ~ 5) について

- ・自身の担当事例を事例検討したことの無い者が約3割。
- ・“実践力アップ事例検討会”のような思考プロセスを経た事例検討会を経験したことがある者となない者は約半数ずつ。
- ・ほぼ全員が事例提供者の事例を自分の担当事例として考え、事例検討会の内容を自身の担当事例への支援に活かしていると回答した。
- ・約2割が事例検討会を通して自身の事例の捉え方やアセスメントの傾向を認識していると思わないと回答した。

#### \* 2-1) ~ 4) について

- ・これまでの事例検討会で、情報の整理を意識的に行い、事実に基づいてアセスメントし、アセスメントに基づいた支援計画を決定していたと思う者は各々6~8割の過半数。
- ・参加者全員がアセスメントを言語化していたかどうかについて、約半数が、「全くそう思わない」「あまりそう思わない」と回答した。

## ○実施直後

計 276 名（見学者 12 名含む）から回答を得た。結果は以下の通り。

設問	1-1)	1-2)	1-3)	1-4)
	事実と想像・印象に情報整理	事実に基づいたアセスメント	全員がアセスメントを言語化	支援目標や支援計画を決定
回答番号	「事例に関する情報を、事実と想像/印象に意識的に整理することができた」 1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	「事実に基づいてアセスメントすることができた」 1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	「参加者全員が、アセスメントを言語化できた」 1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	「アセスメントに基づき、支援目標や具体的な支援計画を決定することができた」 1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う
1	0:(0.0%)	0:(0.0%)	0:(0.0%)	0:(0.0%)
2	4:(1.4%)	4:(1.4%)	15:(5.4%)	7:(2.5%)
3	118:(42.8%)	163:(59.1%)	133:(48.2%)	150:(54.3%)
4	154:(55.8%)	109:(39.5%)	128:(46.4%)	119:(43.1%)
無回答	0:(0.0%)	0:(0.0%)	0:(0.0%)	0:(0.0%)
非該当	—	—	—	—
合計	276:(100.0%)	276:(100.0%)	276:(100.0%)	276:(100.0%)

設問	2-1)	2-2)	2-3)	2-4)
	プロセスの意義を理解できた	自身の傾向を客観的に認識できた	事例検討会の学びを担当事例の支援に活かすことができそう	【事例提供者以外の方】 自分の担当事例のこととして考え検討できた
回答番号	「「事実に基づきアセスメントし、そのアセスメントに基づいて支援目標や支援計画を決定する」というプロセスの意義を理解することができた」 1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	「あなたは、今回の事例検討会を通して、ご自身の事例の捉え方やアセスメントの傾向を客観的に認識できた」 1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	「あなたは、事例検討会での学びを、自分の担当事例の支援に活かすこと/応用することができそう」 1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	「あなたは、事例提供者の事例について、自分の担当事例のこととして、考え検討できた」 1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う
1	0:(0.0%)	0:(0.0%)	0:(0.0%)	0:(0.0%)
2	1:(0.4%)	19:(6.9%)	2:(0.7%)	1:(0.4%)
3	120:(43.5%)	151:(54.7%)	120:(43.5%)	68:(24.6%)
4	155:(56.2%)	106:(38.4%)	153:(55.4%)	148:(53.6%)
無回答	0:(0.0%)	0:(0.0%)	1:(0.4%)	22:(8.0%)
非該当	—	—	—	37:(13.4%)
合計	276:(100.0%)	276:(100.0%)	276:(100.0%)	276:(100.0%)

設問	2-5)	2-6)
	積極的に参加したい	今回の役割
回答番号	「今後、この手法に沿った事例検討会に積極的に参加したいと思いますか」 1: とてもそう思う 2: まあそう思う 3: あまりそう思わない 4: 全くそう思わない	「あなたは、今回参加した事例検討会で、どの役割でしたか」 1: 事例提供者 2: ファシリテーター 3: 板書係 4: その他(参加者)
1	162:(58.7%)	39:(14.1%)
2	109:(39.5%)	30:(10.9%)
3	2:(0.7%)	36:(13.0%)
4	0:(0.0%)	157:(56.9%)
無回答	3:(1.1%)	2:(0.7%)
非該当	—	12:(4.3%)
合計	276:(100.0%)	276:(100.0%)

設問	3-1)	3-2)
	所属先	保健師経験年数
回答番号	1: 市町村 2: 都道府県(本庁/保健所) 3: 企業/健保組合 4: 地域包括支援センター(直営/委託) 5: その他	1: 5年未満 2: 5-10年未満 3: 10-20年未満 4: 20-30年未満 5: 30年以上
1	175:(63.4%)	56:(20.3%)
2	35:(12.7%)	37:(13.4%)
3	43:(15.6%)	77:(27.9%)
4	6:(2.2%)	72:(26.1%)
5	17:(6.2%)	29:(10.5%)
無回答	0:(0.0%)	2:(0.7%)
非該当	0:(0.0%)	3:(1.1%)
合計	276:(100.0%)	276:(100.0%)





**主な結果**

**\* 1-1)～4)について**

- ・ほぼ全員が、情報の整理を行い、事実に基づいてアセスメントし、アセスメントに基づいた支援計画を決定できたと思うと回答した。
- ・参加者全員がアセスメントを言語化できたかどうかについて、約95%がそう思うと回答した。

**\* 2-1)～6)について**

- ・ほぼ全員が思考プロセスの意義を理解できたと思うと回答した。
- ・9割強が、事例検討会を通して自身の傾向を認識できたと思うと回答した。
- ・自身の担当事例として考え検討できたと思うと回答した者は約8割であった。
- ・ほぼ全員が、担当事例の支援に活かすことができそうと回答し、今後も積極的に参加したいと回答した。

**○実施前後の比較**

“実践力アップ事例検討会”の思考プロセスに関する項目について、実施前と実施直後の回答を比較した。方法と結果は以下の通り。

(対象) 実施前の設問 2-1)～4) 及び実施直後の設問 1-1)～4) に回答した者

※但し、見学者は除く

(比較方法)

- ① 各団体において、実施前の設問 2-1)～4) 及び実施直後の設問 1-1)～4) について、設問ごとに合計得点を算出  
 ※合計得点 = [回答番号 × 各回答番号の回答者数] の合計  
 ※回答番号: 「1:全くそう思わない」「2:あまりそう思わない」「3:まあそう思う」「4:とてもそう思う」
- ② 上記の設問ごとに、各団体の平均点を算出
- ③ 各団体において、各設問の実施前の平均点と実施直後の平均点を比較

※比較対象

	実施前	実施直後
設問	2-1)の平均点	1-1)の平均点
	2-2)の平均点	1-2)の平均点
	2-3)の平均点	1-3)の平均点
	2-4)の平均点	1-4)の平均点

(結果：各団体の実施前後の比較)

岐阜県岐阜市（参加区分 A）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.79	2.88	2.33	2.67	24
実施直後	3.61	3.25	3.25	3.32	28

北海道農業団体健康保険組合（参加区分 A）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	3.33	3.33	3.00	3.00	6
実施直後	3.83	3.17	3.50	3.33	6

全国健康保険協会 東京支部（参加区分 A）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.43	2.86	2.29	2.43	7
実施直後	3.63	3.50	3.63	3.75	8

三重県志摩市（参加区分 A）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.71	3.07	2.29	3.00	14
実施直後	3.50	3.40	3.60	3.60	10

佐賀県伊万里保健福祉事務所（参加区分 A）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.67	3.00	2.11	2.56	9
実施直後	3.78	3.44	3.67	3.56	9

高知県安芸市（参加区分 A）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	3.07	3.07	2.93	2.67	15
実施直後	3.47	3.07	3.13	2.93	15

岩手県二戸市（参加区分 B）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	3.14	3.14	2.71	2.86	7
実施直後	3.80	3.80	4.00	4.00	5

茨城県鉾田市（参加区分 B）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.94	2.82	2.29	2.82	17
実施直後	3.43	3.29	3.64	3.00	14

茨城県つくば市（参加区分 B）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.64	2.91	2.27	2.82	11
実施直後	3.78	3.33	3.11	3.33	9

千葉県君津健康福祉センター（参加区分 B）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.50	2.88	2.63	2.88	8
実施直後	3.57	3.71	3.57	3.57	7

新潟県南魚沼市（参加区分 B）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.79	3.00	2.64	3.07	14
実施直後	3.17	3.33	3.00	3.50	12

三重県名張市（参加区分 B）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.77	2.85	2.46	2.85	13
実施直後	3.46	3.38	3.15	3.31	13

三重県松阪市（参加区分 B）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	3.17	3.33	3.00	3.50	6
実施直後	3.33	3.00	3.17	4.00	6

兵庫県姫路市（参加区分 B）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.71	2.98	2.67	3.08	49
実施直後	3.60	3.44	3.56	3.54	50

愛媛県西予市（参加区分 B）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.50	2.83	2.00	2.50	6
実施直後	3.83	3.83	3.00	3.33	6

高知県四万十市（参加区分 B）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	3.00	3.18	3.09	3.36	11
実施直後	3.64	3.82	4.00	3.82	11

佐賀中部保健福祉事務所（参加区分 B）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.30	2.80	2.10	2.60	10
実施直後	3.50	2.88	2.63	3.00	8

全国健康保険協会 宮城支部（参加区分 B）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.65	3.00	2.57	2.70	23
実施直後	3.35	3.38	3.42	3.35	26

静岡県農業団体健康保険組合（参加区分 B）

	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.25	3.00	2.75	2.75	4
実施直後	3.80	3.80	3.40	3.40	5

JTB 東日本健康増進センター（参加区分 B）

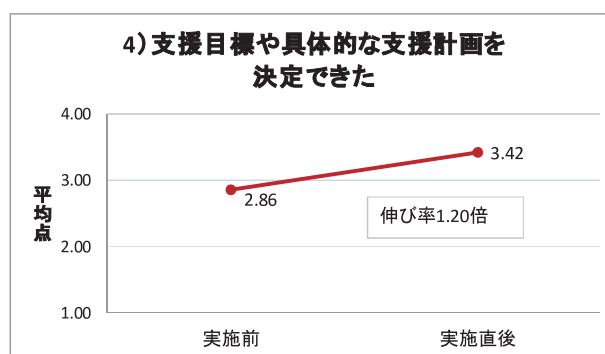
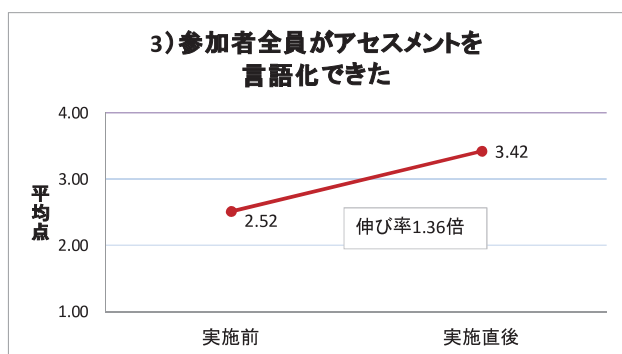
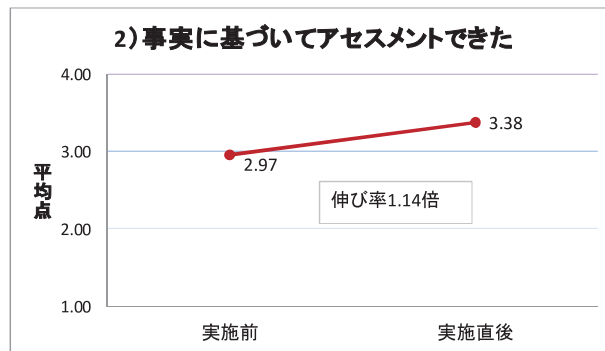
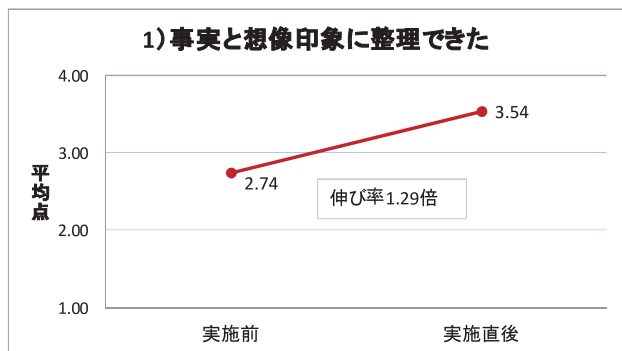
	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.33	3.00	2.17	2.67	6
実施直後	3.17	3.17	3.50	3.33	6

産業保健師自主勉強会（愛知）（参加区分 B）

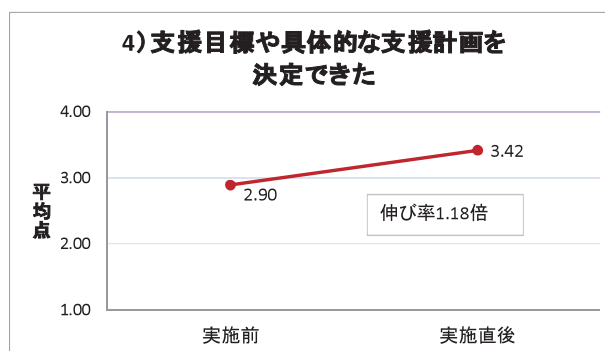
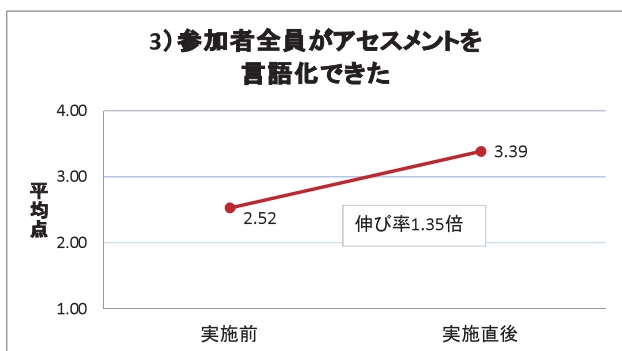
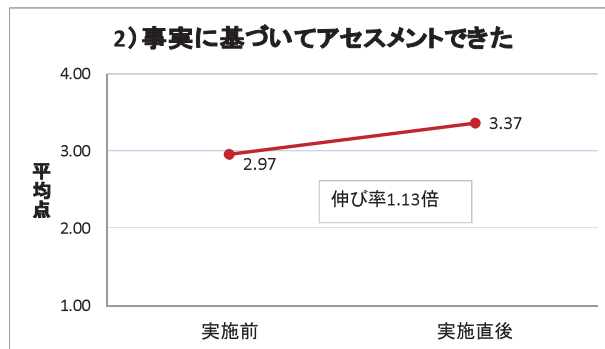
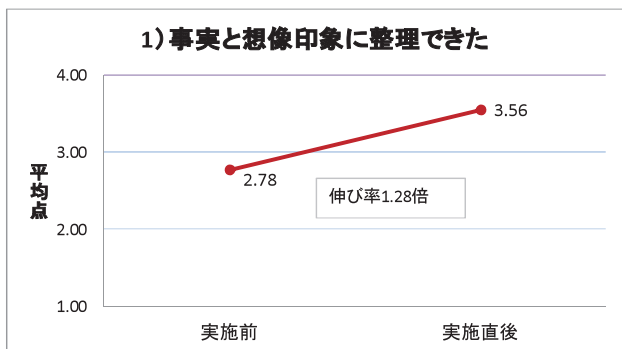
	1) 事実と想像印象に整理できた	2) 事実に基づいてアセスメントできた	3) 参加者全員がアセスメントを言語化できた	4) 支援目標や具体的な支援計画を決定できた	人数
実施前	2.58	2.83	2.42	2.75	12
実施直後	3.60	3.50	3.80	3.50	10

(結果：全団体・分野別の実施前後の比較)

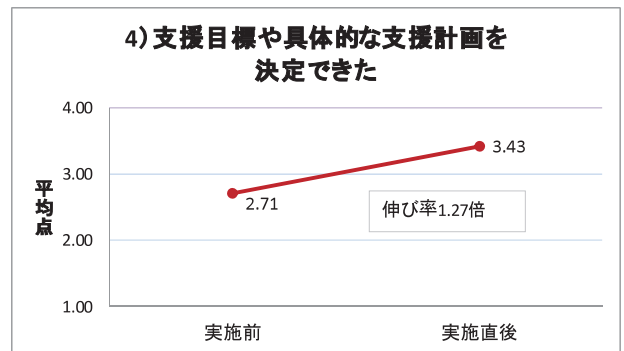
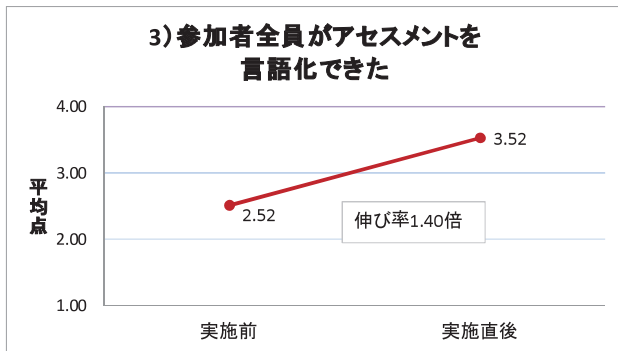
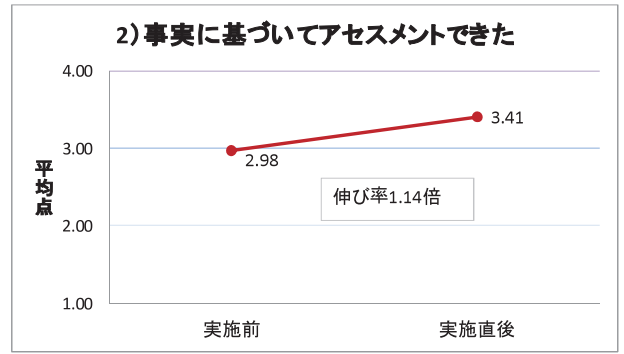
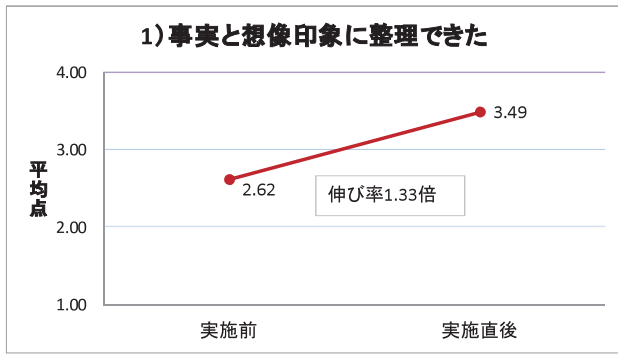
全団体 ※実施前：272名、実施直後：264名



行政分野 ※実施前：214名、実施直後：203名



産業分野 ※実施前：58名、実施直後：61名



### 主な結果と評価

- ・全団体の合計で、各項目について実施前より実施直後の方が平均点は高かった。この事例検討会の目標である、「事実と想像・印象に整理すること」「事実に基づいてアセスメントすること」「アセスメントに基づいて目標や支援計画を策定すること」について、一定の成果が得られたと考える。また、「参加者全員がアセスメントを言語化する」ことについても、成果が得られたと考える。
- ・行政及び産業分野別では、実施前より実施直後の方が平均点は高かった。これも上記と同じく、分野の違いに関係なく成果があったと考える。
- ・団体別では、2団体において、「事実に基づいてアセスメントできた」について実施前より実施直後の方が平均点は低くなっていた。次項以降に示す自由記載からも分かるように、体験することで、その難しさや実態を改めて感じるようになったのではないかと考える。
- ・以上の結果は、あくまで参加者の主観的感想によるものであり、また今回は他職種の参加者を数%含んだ結果であることから評価に限界はあるものの、この事例検討会の手法は、保健師の保健指導技術の獲得、保健指導の質の確保に寄与するものと考ええる。

## ○実施直後の主な自由記載：良かった点、難しかった点、気づいた点など

- ・準備が少なく、気軽に行えるので、普段からも行っていけたらいいと思う。
- ・すべての意見を否定せず、拾い上げるし、事例提供者を追い詰める展開もないので、気持ちよく話し合うことができた。全員から意見を出してもらうことの楽しさや意義を感じた。
- ・意見を否定されないというグラウンドルールがあり、安心して発言できた。
- ・日常の会議、打合せ等の中では、ベテラン保健師の意見が多く出される傾向があった。しかし、この事例検討会ではグラウンドルールがあったので、若いメンバーも皆が自分の意見や考えを出そうと努力してもらえてよかった。
- ・自分で記録することがなかったので、聞くこと考えることに集中できた。
- ・机がなくホワイトボードを椅子で囲んで話し合うと意見を言いやすかった。
- ・普段は頭の中で一人で考えていくことが多いが、情報を整理し筋道を立てて考えていく、目に見える形にしていくことで、すでに把握した情報やアセスメントしたことに簡単に戻ることもでき良かった。
- ・板書することで、事例について参加者全員が共通に認識をもちながら検討を進められたと思う。
- ・事例提供者とのやり取りの中で、次々に新しい事実が出てきたりするため、板書係は難しかったと思うが、板書係を通じて思考を鍛えることができたと思う。
- ・STEP3～4に時間をかけたかったが、経過説明に時間がかかりすぎてしまい、進行が難しかった。
- ・どのような時間配分にしたらよいか、どこに時間をとったらよいかなど考えるのが難しかった。
- ・事例概要の説明に時間がかかっていたため、タイマーをセットし、細かな点は省いて次のSTEPで言うようにすることで5～10分で行えるようになり、質問も活発に出るようになった。
- ・大まかな事例紹介があると、もっとスムーズに事例提供者への質問や確認ができたと思う。
- ・事例提供者の持っている情報の量が少なすぎると、的確なアセスメントや支援策が決められない。
- ・経過が長いケース、事実と想像、印象が混ざりやすかったが、この検討スタイルを意識することで整理しやすかった。
- ・事実と想像の分類が難しかった。他の人の意見を聞くことで分類できた。普段から記録を書くときに気を付けていないといけないと思った。
- ・事実と想像が、思いのほか区別できていないと感じた。
- ・事実に基づいてアセスメントすること、想像、印象とは分けて考えていくことが大切だと感じた。
- ・事実整理は時間がかかるが、丁寧にすることでアセスメントがしやすくなる。
- ・事実と想像を整理することが、支援の方向性、目標に大切であることに気付いた。
- ・きちんと言葉にしてアセスメントすることの大切さと難しさを感じた。何気なく発している言葉が、キーワードだったりする。
- ・普段からの心がけが少ないことが、アセスメントを“キャッチ”できないのだと感じた。
- ・情報がないとアセスメントできないという手順にとられるので、確認すべき情報の整理とアセスメントは、“同時に行う”と認識して進めた方が良かったと思った。
- ・支援の方向性を考えるとき、あくまで当事者が望んでいる目指す方向性を把握したうえで支援しないと押し付けになってしまうと感じた。
- ・ケースの目標をみんなで考えられた事で、方向性に自信がつくことが分かった。
- ・情報が少ない中、想像し予測しながら支援の具体策を考えていくことは難しいと思ったが、みんなで



考えることで今やるべきことが分かるということが分かった。

- ・アセスメント、具体的な支援策、確認すべき情報のサークルを上手に回せなかった。練習が必要。
- ・参加者が一体となり、実現可能な支援計画を考えられた。
- ・この検討会を実施していくことで事例の捉え方だけでなく、業務の体制や地域性の違いも共有することができ、担当業務以外のことも地区担当として意見を言って検討していくことができる。
- ・自分の考えや支援方法などを広い目でみていくことで多くの視点を知り、今後に生かすことができる。
- ・自分のケースを自分で考えるとき、また記録を書くときにも、活かせる。
- ・単発的に終わらせることなく、何回か話し合うことで解決の糸口や問題の本質が見えるのではないかと。
- ・継続することで他への応用も可能になると感じた。
- ・事例検討をする際に頭に思い浮かぶ事が色々あるが、今回この方法で検討してみて、それらすべてが事例を考える上で必要なものであると分かった。
- ・項目ごとに整理できる事が、客観的にきちんと整理できていく事につながる。
- ・アセスメントの整理、情報がどんどん出てくる中で、大事なところをおさえて意見を整理することが難しかった。経験を重ねて力をつけたい。
- ・やみくもに事例検討するのではなく、順序立てて参加者全員で行う事で共通の認識がもて、その中で自分の事例として捉えていくことができた。
- ・従来の事例検討会と違い、プロセスを踏んでいく中で全員合意しつつ方向性を導き出すことができる。
- ・自分では考えていなかった視点や意見を聞くことで、次回からの自分のケースに対応する時に少しだけレベルアップする事ができそう。
- ・具体的な支援策を一緒に考えていくことで事例の見方や関わり方に広がりを持つようになると思う。
- ・対象者について不明点が多くあったが、参加者1人1人が「こういうことも考えられる」と次々意見が出され、色々な視点、可能性を考え対象にアプローチできる“幅”の大切さを学んだ。
- ・これまでの事例検討とは違い、自分の事として考える事ができた。
- ・みんなで一緒にやっていく、考えていくというのは楽しいと思った。
- ・ケースの捉え方は、各支援者によって傾向がある。異なった捉え方、気づきにつながり良かった。
- ・参加者全員が自分の言葉で発言したことで、検討に参加しているという感を皆が抱けたように感じた。
- ・事例提供者に責められ感がないのは、板書にみんなの意識が向いているからではないかと思う。
- ・これまでの事例検討会では、提供者に対して、不足していた関わりなど責める口調になってしまいがちであるが、今回はみんなで考えて意見をだしていくところが良いと思う。
- ・板書に書き落としながらみんなで状況を確認しながら検討できたため、経験年数に差があっても一緒に事例を共有できた。
- ・業務をしている中で考えながら事例と関わっていたが、言語化するという事をあまりしていなかった。言語化すると優先順位等が見えてきて、整理ができた。
- ・他地区の活動を知り、自分の地区の活動にも参考になった。
- ・すべての事例に対しての考え方に繋げていけると思うので良かった。
- ・自分の捉え方の傾向や、不足している視点、関わりに気付く良い機会になった。
- ・事例検討を通して、自身の活動の振り返り（どういった視点で見るか等）ができて良かった。
- ・自身の事例を頭に浮かべながら話せた。参加者全員で自分の事例として検討することができたと思う。



## ○実施後 2 週間～1 ヶ月後

各団体代表者 20 名及び参加者 246 名（見学者 9 名含む）から回答を得た。結果は以下の通り。

※各団体代表者とは、本事業への申し込み代表者を基本とし、各団体で任意に選出された者

（参加者の回答）

設問	1-1)	1-2)
	この手法を用いて事例検討会を実施したか	今後、この手法を用いた事例検討会を実施する予定はあるか
回答番号	1: 実施した 2: 実施していない	1: 予定あり 2: 検討中 3: 予定なし
1	101 (41.1%)	130 (52.8%)
2	144 (58.5%)	73 (29.7%)
3	—	35 (14.2%)
無回答	1 (0.4%)	8 (3.3%)
非該当	—	—
合計	246 (100.0%)	246 (100.0%)

1-1) 「2: 実施していない」理由

- ・ 今後実施予定、計画中（約 10%）
- ・ 機会がなかった（約 10%）
- ・ 時間が取れない、忙しい（約 10%強）
- ・ 検討事例がなかった（約 5%）

設問	1-3)	1-4)	1-5)
	事例検討会での学びを自分の担当事例の支援に活かす/応用することができた	事例検討会に参加して、自身の事例の捉え方やアセスメントの傾向に何らかの変化があった	【事例提供者の方】 具体的にになった支援計画を実践に活かすことができた
回答番号	1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う
1	1 (0.4%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)
2	17 (6.9%)	18 (7.3%)	6 (2.4%)
3	159 (64.6%)	165 (67.1%)	37 (15.0%)
4	66 (26.8%)	59 (24.0%)	23 (9.3%)
無回答	3 (1.2%)	3 (1.2%)	3 (1.2%)
非該当	—	—	177 (72.0%)
合計	246 (100.0%)	246 (100.0%)	246 (100.0%)

設問	2-1)	2-2)
	所属先	保健師経験年数
回答番号	1: 市町村 2: 都道府県(本庁/保健所) 3: 企業/健保組合 4: 地域包括支援センター(直営/委託) 5: その他	1: 5年未満 2: 5-10年未満 3: 10-20年未満 4: 20-30年未満 5: 30年以上
1	161 (65.4%)	52 (21.1%)
2	32 (13.0%)	26 (10.6%)
3	44 (17.9%)	76 (30.9%)
4	6 (2.4%)	60 (24.4%)
5	3 (1.2%)	26 (10.6%)
無回答	0 (0.0%)	6 (2.4%)
非該当	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	246 (100.0%)	246 (100.0%)



(各団体代表者の回答)

設問	1-1)	1-2)	2-1)	2-2)
	この手法は、参加者相互の問題解決能力や実践力を醸成することに役立ったか	この手法は、対象者へのより良い支援に役立ったか	試行への参加は団体/職場に役立ったか	試行への参加は、団体/職場のニーズと合っていたか
回答番号	1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: まあそう思う 4: とてもそう思う	1: はい 2: いいえ	1: はい 2: いいえ
1	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (100.0%)	20 (100.0%)
2	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3	9 (45.0%)	10 (50.0%)	—	—
4	11 (55.0%)	10 (50.0%)	—	—
合計	20 (100.0%)	20 (100.0%)	20 (100.0%)	20 (100.0%)

(主な自由記載)

- ・事実と想像と区別してケースを考えるよう気を付けている。
- ・事実と想像をきちんと分けて捉えるように努力している。記録の際にも気を付けている。
- ・気軽に事例について話し合うことが増えた。
- ・スーパーバイズが必要ない事例検討のため、気軽に取り組めると思う。一方で参加者の意識について主体性が問われると思う。
- ・ファシリテーターや板書係などの役割についても、経験を積むことで効果的に役割を果たせるように事例検討を積み重ねていきたい。
- ・月1回の定例会でこの事例検討会を実施している。
- ・毎月の職員会議で1例ずつ実施することにした。
- ・定期的に事例検討会を開催しようと計画中。
- ・他職種でケース検討を行う時に、この事例検討会を行った。
- ・事例検討会に参加できて、部下の支援の質向上に役立ったと考えている。
- ・保健師、管理栄養士で行ったが、非常に活発な意見交換ができ、参加者からも良い評価を受けた。
- ・事例検討の翌日の支援で検討内容を参考にできた、という意見もあり実践に役立つ内容だと思う。
- ・事例検討会を行う目的、意義をしっかりと持って取り組むことが事例への対応への意欲にもつながると思う。

主な結果と評価

- ・この事例検討会を自主的に実施した者は約4割にとどまったが、今後実施予定や検討中の者は約8割であった。
- ・約9割が、事例検討の内容を自分の担当事例に活かし、事例検討によって事例の捉え方やアセスメントに変化があったと思うと回答した。
- ・各団体代表者からも、この事例検討会が各団体/職場で有効だったという回答を得た。
- ・自由記載では、事業参加後に各団体/職場での様々な前向きな変化が見られた。
- ・以上より、本事業及びこの事例検討会が保健活動の実践現場で役立つものとする。

## Ⅱ-資料

(注) P64・67 の評価票は、“実践力アップ事例検討会”を開発する際に使用したものです。



○ “実践力アップ事例検討会”の開発に使用した評価票

評価票①  
(事例検討会実施前)

団体名

厚生労働省 保健指導支援事業 保健指導技術開発事業 (効果的な事例検討会モデルの開発)

事例検討会に関する評価及び情報収集

1. 今までに参加した事例検討会でのご自身の経験についてお伺いします。  
※該当する箇所にチェック☑を付けてください。

- 1) 事例検討会で、ご自身の担当事例を検討した経験がある.....□はい □いいえ
- 2) 「事実に基づきアセスメントし、そのアセスメントに基づいて支援目標や支援計画を決定する」というプロセスを踏まえた事例検討会を経験したことがある.....□はい □いいえ
- ※該当する番号に○を付けてください。

質問項目	選択肢				
	4 とても そう思 う	3 まあ そう思 う	2 まあ そう思 わない	1 全く そう思 わない	1 全く そう思 わない
3) あなたは、事例提供者の事例について、自分の担当事例のこ ととして考え、検討している	4	3	2	1	1
4) あなたは、事例検討会での学びを、自分の担当事例の支援に 活かしている/応用している	4	3	2	1	1
5) あなたは、事例検討会を通して、ご自身の事例の捉え方やア セスメントの傾向を、客観的に認識している	4	3	2	1	1

2. 今までに参加した事例検討会の状況についてお伺いします。  
※該当する番号に○を付けてください。

質問項目	選択肢				
	4 とても そう思 う	3 まあ そう思 う	2 まあ そう思 わない	1 全く そう思 わない	1 全く そう思 わない
1) 事例に関する情報を、事実と想像/印象とに意識的に整理し ていた	4	3	2	1	1
2) 事実に基づいてアセスメントしていた	4	3	2	1	1
3) 参加者全員が、アセスメントを言語化していた	4	3	2	1	1
4) アセスメントに基づき、支援目標や具体的な支援計画を決定 していた	4	3	2	1	1

※注) 事実とは、客観的事実及び、客観的事実と判断されたこと。(例:直接確認できたこと)

※注) 想像/印象とは、客観的事実ではないと判断されたこと。(例:情報源が不明確なこと、推測されたこと)

3. あなたのご所属、保健師としての経験年数をお伺いします。

※該当する番号に○を付けてください。

- 1) 所属先  
1. 市町村 2. 都道府県(本庁/保健師) 3. 企業/健保組合  
4. 地域包括支援センター(區/高/委託) 5. その他
- 2) 通算での保健師経験年数(休職中は除く)  
1. 5年未満 2. 5～10年未満 3. 10～20年未満 4. 20～30年未満 5. 30年以上

ご協力いただきありがとうございました。  
【担当事務局】日本看護協会 健康政策部保健師課

1. 効果的な事例検討会モデルの内容やそのポイントについて、該当する番号に○を付け、空欄にその理由をご記入下さい。

		理解できましたか		実施できそうですか		回答理由 (理解しにくかった内容やその理由、実施が難しい と思った理由、具体的な改善点等)
		1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
1)	「準備」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
2)	「STEP1:導入」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
3)	「STEP2:事例紹介」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
4)	「STEP3:情報の整理①②」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
5)	「STEP4:アセスメント」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
6)	「STEP5:確認すべき情報の整理」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
7)	「STEP6:支援の方向性と役割の確認」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
8)	「STEP7:振り返り(評価)」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
9)	「事例検討会終了後」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
10)	「事例提供者の役割」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
11)	「ファシリテーターの役割」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
12)	「板書係の役割」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
13)	「事例検討会参加者全員の役割」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	
14)	「ホワイトボード活用例」について	1. はい	2. いいえ	1. はい	2. いいえ	

※ 「いいえ」に○を付けた方で、事務局に対し、何らかのサポートを希望される方は団体名をご記入下さい。団体名

→ 裏面へつづく

● すでに実施されている事例検討会の手法や、その他ご存じのもの、参考にされているもの等がございましたら、お聞かせ下さい。

● その他、ご意見やご感想をお聞かせ下さい。

2. あなたのご所属、保健師としての経験年数をお伺いします。

※該当する番号に○を付けてください。

1) 所属先

1. 市町村      2. 都道府県(本庁/保健所)      3. 企業/健保組合      4. 地域包括支援センター(直営/委託)      5. その他

2) 通算での保健師経験年数(休職中は除く)

1. 5年未満      2. 5～10年未満      3. 10～20年未満      4. 20～30年未満      5. 30年以上

ご協力いただきありがとうございました。  
【担当事務局】日本看護協会 健康政策部保健師課

評価票③  
(事例検討会実施直後)

厚生労働省 保健師支援事業 保健師技術開発事業 (効果的な事例検討会モデルの開発)  
事例検討会に関する評価及び情報収集

団体名

● 今回の事例検討会を実施する過程 (事例検討会前/事例検討会中/事例検討会後) で、難しかった点や、良かった点、また具体的な改善点や気付かれたこと等がありましたら、ご記入下さい。

● その他、ご意見やご感想をお聞かせ下さい。

3. あなたの現在のご所属、保健師としての経験年数をお伺いします。

※該当する番号に○を付けてください。

- 1) 所属先
  1. 市町村
  2. 都道府県(本庁/保健所)
  3. 企業/健保組合
  4. 地域包括支援センター(直営/委託)
  5. その他
- 2) 通算での保健師経験年数 (休職中を除く)
  1. 5年未満
  2. 5～10年未満
  3. 10～20年未満
  4. 20～30年未満
  5. 30年以上

ご協力いただきありがとうございます。  
【担当事務局】日本看護協会 健康政策部保健師課

1. 今回参加した事例検討会の状況についてお伺いします。  
※該当する番号に○を付けてください。

質問項目	選択肢			
	4 とても そう思 う	3 まあ そう思 う	2 あまり そう思 わない	1 全く 思わ ない
1) 事例に関する情報を、事実②と想像/印象①に意識的に整理することができた	4	3	2	1
2) 事実に基づいてアセスメントすることができた	4	3	2	1
3) 参加者全員が、アセスメントを言語化できた	4	3	2	1
4) アセスメントに基づき、支援目標や具体的な支援計画を決定することができた	4	3	2	1

※注) 事実とは、客観的事実及び、客観的事実と判断されたこと。(例: 直接確認できたこと)  
※注) 想像/印象とは、客観的事実ではないと判断されたこと。(例: 情報源が不明確なこと、推測されたこと)

2. 今回参加した事例検討会でのご自身の経験についてお伺いします。  
※該当する番号に○を付けてください。

質問項目	選択肢			
	4 とても そう思 う	3 まあ そう思 う	2 あまり そう思 わない	1 全く 思わ ない
1) 「事実に基づきアセスメントし、そのアセスメントに基づいて支援目標や支援計画を決定する」というプロセスの意義を理解することができた	4	3	2	1
2) あなたは、今回の事例検討会を通して、ご自身の事例の捉え方やアセスメントの傾向を、客観的に認識できた	4	3	2	1
3) あなたは、事例検討会での学びを、自分の担当事例の支援に活かすこと/応用することができそう [※事例提供者以外の方には伺いません]	4	3	2	1
4) あなたは、事例提供者の事例について、自分の担当事例のこととして、考え検討できた	4	3	2	1

● 今後、このモデルに沿った事例検討会に積極的に参加したいと思いませんか。

1. とてもそう思う
2. まあそう思う
3. あまりそう思わない
4. 全くそう思わない

↑  
[「3. あまりそう思わない」「4. 全くそう思わない」と回答した方に伺います]  
その理由をご記入下さい。

● あなたは、今回参加した事例検討会で、どの役割でしたか。

1. 事例提供者
  2. ファシリテーター
  3. 板書係
  4. 参加者(1～3以外)
- 裏面へつづく



評価票④ 各団体代表者用  
(事例検討会実施1カ月後)

団体名

厚生労働省 保健指導支援事業 保健指導技術開発事業 (効果的な事例検討会モデルの開発)

本事業の企画評価について

1. 今回の事業内容について、お伺いします。  
該当する番号に○を付けて下さい。

質問項目	選択肢				
	4 とても そう思 う	3 まあ そう思 う	2 あまり そう思 わない	1 全く 思わ ない	
1) 事例検討会モデルは、参加者相互の問題解決能力や実践力を醸成することに役立ちましたか	4	3	2	1	
2) 事例検討会モデルは、対象者へのより良い支援に役立ちましたか	4	3	2	1	

2. 今回の事業企画について、お伺いします。  
該当する番号に○を付けて下さい。また、「いいえ」とご回答の場合、その理由についてもご記入下さい。

質問項目	選択肢		「いいえ」と回答された場合の理由
	2 はい	1 いいえ	
1) 事例検討会モデル試行への参加は、貴団体/職場において、役に立ちましたか	2	1	
2) 事例検討会モデル試行への参加は、貴団体/職場の保健師のニーズと合致していませんか	2	1	

● 本事業(事例検討会モデルの開発)について、改善すべき点や、ご要望がありましたら、具体的に記入下さい。また、今後ご希望される企画や本会へのご意見等ありましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただきありがとうございました。  
【担当事務局】日本看護協会 健康政策部保健師課

評価票④ 全員用  
(事例検討会実施1カ月後)

団体名

厚生労働省 保健指導支援事業 保健指導技術開発事業 (効果的な事例検討会モデルの開発)

事例検討会に関する評価及び情報収集

1. モデルに沿った事例検討会を実施した後の状況についてお伺いします。  
※該当する箇所にチェック☑を付けて下さい。

1) モデルに沿った事例検討会を実施した後、貴団体/職場において、このモデルを用いて事例検討会を実施しましたか  
実施した 実施していない  
 「実施していない」と回答された方は、その理由を差し支えない範囲でご記入下さい。

2) 今後、貴団体/職場において、このモデルを用いて事例検討会を実施する予定はありますか  
 ..... 予定あり 検討中 予定なし

3) モデルに沿った事例検討会を実施した後、貴団体/職場において、新たに取り組んでいられることがありますら、ご記入下さい。

● その後の保健師活動について伺います。※該当する番号に○を付けてください。

質問項目	選択肢				
	4 とても そう思 う	3 まあ そう思 う	2 あまり そう思 わない	1 全く 思わ ない	
4) 事例検討会での学びを、自分の担当事例の支援に活かすこと/応用することができた	4	3	2	1	
5) 事例検討会に参加して、ご自身の、事例の伝え方やアセスメントの傾向に、何らかの変化があった	4	3	2	1	
6) 事例検討会で、具体的な実践に活かすことができた	4	3	2	1	

● 今後ご希望される企画や、本会へのご意見等ありましたら、ご自由にお書き下さい。

2. あなたの現在のご所属、保健師としての経験年数をお伺いします。  
※該当する番号に○を付けてください。

- 1) 所属先  
 1. 市町村 2. 都道府県(体庁/保健所) 3. 企業/健保組合  
 4. 地域包括支援センター(匡高/委託) 5. その他
- 2) 通算での保健師経験年数(休職中は除く)  
 1. 5年未満 2. 5～10年未満 3. 10～20年未満 4. 20～30年未満 5. 30年以上  
 ※協力いただきありがとうございました。  
 【担当事務局】日本看護協会 健康政策部保健師課



○ “実践力アップ事例検討会” の手順（簡易版）

“実践力アップ事例検討会” の手順

<b>準備</b>	検討事例、参加者、日程、場所/会場の決定
<b>STEP1</b>	<b>導入</b> : 自己紹介、所要時間の確認、事例の“骨格”の共有、グラウンドルールの確認
<b>STEP2</b>	<b>事例紹介</b> : 事例提供者から事例概要の説明
<b>STEP3</b>	<b>情報の整理①</b> : 提供された情報を「事実」と「想像・印象」に整理・分類
	<b>情報の整理②</b> : 追加情報の確認、「事実」「想像・印象」「不明点」に整理・分類
<b>STEP4</b>	<b>アセスメント</b> : 現状の評価、今後予測されることの検討
<b>STEP5</b>	<b>確認すべき情報の整理</b> : アセスメントの妥当性を担保するために必要な情報の確認
<b>STEP6</b>	<b>支援の方向性の確認</b> : 目標の検討、支援策の検討・確認
	<b>役割の確認</b> : 今後の役割分担とその手法の検討・確認
<b>STEP7</b>	<b>振り返り(評価)</b> : 感想の共有、記録の確認、日程の確認
<b>事例検討会終了後</b>	実践、経過の報告、事例検討会の定期的な開催

## 準備 (P8~10参照)

### ■ 検討事例の決定

- ・事例提供者は、事例提供の準備をする  
※資料は事例提供者の手元資料とし、参加者に配付しない

### ■ 参加者と日程の決定

- ・少なくとも5名以上のグループで実施する
- ・事例の関係者が参加できるように調整する
- ・参加者を決定し、役割分担する（ファシリテーター、板書係を決定する）  
※役割に就いた人は、当日までに各々の役割に応じて準備を進める
- ・事例検討会当日の検討時間を十分に確保する（1時間程度）

### ■ 場所/会場の決定と物品の準備

- ・個人情報保護の観点から、適切な会議室等を準備する
- ・ホワイトボード2台を前方に設置し、半円を描くようにイスを並べる
- ・必要物品を確認し準備する  
※ホワイトボードのマーカー（できれば3色以上）の下書き具合を確認する  
※終了後の記録用（板書の記録用）にデジカメ等を準備する

#### 板書(ホワイトボード)を使うメリットとは？

- ①議論を“空中戦にしない”
- ②当事者意識を高め、より良い結論をもたらす

## STEP1：導入 (P10~12参照)

### ■ 挨拶、短めに自己紹介をする

### ■ 所要時間の確認をする

#### なぜ全員で所要時間を確認するのか？

### ■ 事例の“骨格”と事例提供の理由を共有する

- ・ファシリテーターが事例の“骨格”と事例提供の理由を簡潔に説明し共有する  
※事例提供者はファシリテーターと事例概要について事前に共有しておく

#### 事例の“骨格”とは？

### ■ ファシリテーターがグラウンドルールを説明する

<グラウンドルール>

- \*事例はみんなで考え全員が発言する
- \*誰かを責める会にしない
- \*人の話はさえぎらない
- \*事例提供者の支援内容を否定/批判しない
- \*ファシリテーターの指名には応える
- \*事例提供者をねぎらう

#### ポイント①

**グラウンドルールは、毎回確認する**

## STEP2 : 事例紹介 (P13~14参照)

### ■事例提供者が事例の概要を説明する

- ・事例の全体像を要約し、家族状況、経過・現状を5-10分程度で説明する

事例概要を正確に伝えるためには？

#### ポイント②

要点を絞り短時間で伝える

## STEP3 : 情報の整理①② (P15~16参照)

### ■事例提供者からの情報を概観し、参加者全員で、情報を「事実」と「想像・印象」に整理、分類する(情報の整理①)

- ・質疑応答によって、事例の全体像を共有する

### ■追加情報を確認し、新たな情報について、「事実」「想像・印象」「不明点」に整理、分類する(情報の整理②)

事例に関するすべての情報を把握しないと支援できない？

#### ポイント③

事実に基づいてアセスメントするために情報を整理する

## STEP4 : アセスメント (P17~19参照)

### ■事実から現状を評価し、今後どのようなことが危惧されるか意見を出し合う

- ・そのアセスメントに至った事由(情報)を添えて発言する

#### ポイント④

参加者全員が、アセスメントを言語化する

### ■以下の視点等から事例を捉え、意見を出し合う

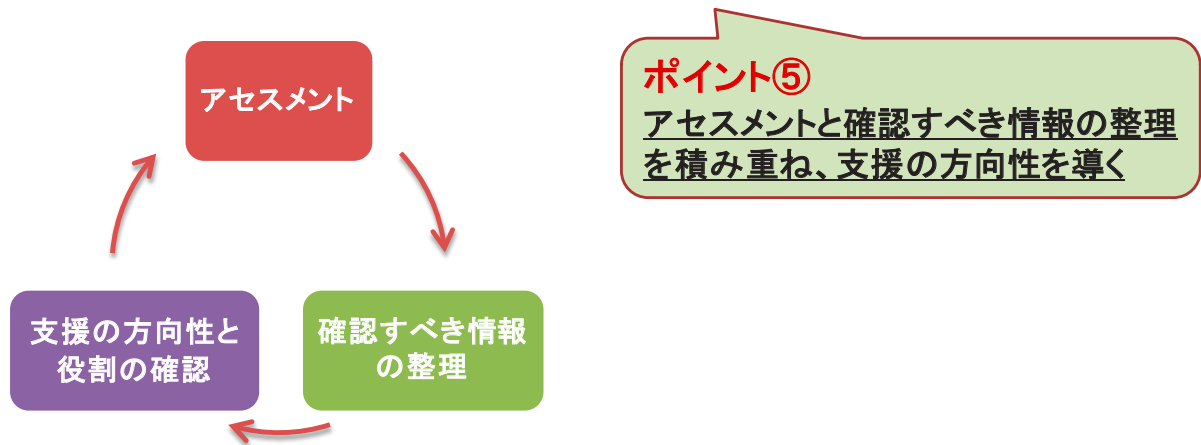
- ・生活を支える視点  
(生活歴、家族状況・居住環境・制度の利用状況等の社会的側面、経済的側面など)
- ・医療的側面  
(身体/精神/知的機能、既往歴、現病歴、受診/内服状況、症状など)
- ・心理的側面(受け止め/思いなど)
- ・事例の「強み」(できていることや社会的なサポートなど)

なぜアセスメントは必要なの？

## STEP5：確認すべき情報の整理（P19参照）

- 「想像・印象」「不明点」から確認すべき情報を整理する
- アセスメントの妥当性を担保するために、今後さらに必要な情報を確認する

もう一度確認すべき情報を整理する意味は？



## STEP6：支援の方向性と役割の確認（P20～22参照）

- 事例の目標（短期目標・長期目標）を検討する
  - ・これまでのSTEPを経て事例がどうなりたいと思っているかを改めて確認する
  - ・支援者として、事例がどうなることを目指すのかを考える

### ポイント⑥

事例がどうなりたいと思っているか、その上でどうなることを目指すのか、を考えるときの主語は“事例”

- 具体的な支援策を検討し、確認する
  - ・実施可能で、具体的な支援策を考え決定する
  - ・支援策が多岐に渡る場合は、適宜優先順位をつける
  - ・活用できる既存の社会資源や、新たに必要な社会資源は何かを検討する

### ポイント⑦

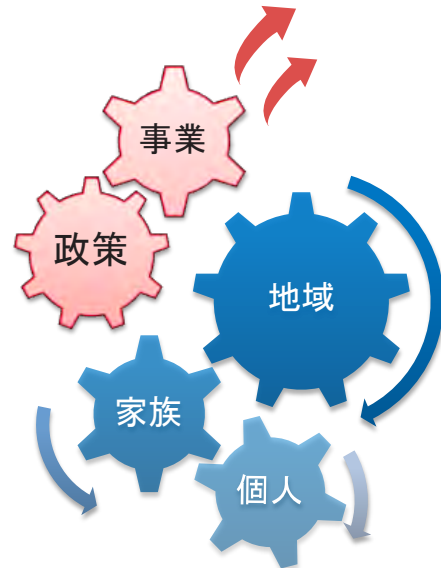
どのような支援をするのか、を考えるときの主語は“支援者”

- 今後の役割分担とその手法を具体的に検討し、決定する
  - ・ 誰が、いつまでに、何をどうするか、を決定する

**ポイント⑧**  
支援者の役割分担を明確にし、  
具体的な行動に移していく

STEPはもう戻れない？

事例をみると地域が(も)みえる？



### STEP7：振り返り（評価）（P23参照）

- 参加者全員で事例検討会の感想を共有する
  - ・ 必ず、事例提供者の事例提供のねらいが達成されたかを確認する
- 個人情報保護、守秘義務について確認する
  - ・ 記録する場合は、すべて匿名（イニシャル）とする
  - ・ 資料配付した場合は、破棄するか、持ち帰る場合は保管に留意する
- 次回の事例検討会の日程等を確認する
- 事例提供者は、事例検討会の内容を記録に残し、保存する
  - ・ 板書内容を写真に撮る、もしくは書き写すなどして保存する

### 事例検討会終了後（P23～24参照）

- 事例検討会の結果を活かし、実践後、適宜経過を報告する
  - ・ 事例検討会の結果（アセスメントや支援の方向性）が妥当だったかを検討する
- 事例検討会を繰り返し実施する
  - ・ 可能な限り、定期的を開催する（月1回開催する等）

繰り返し実施すると得られるものは？



平成 25 年度 厚生労働省保健指導支援事業 保健指導技術開発事業  
事例検討会の手法の開発

有識者

---

遠藤 厚子	世田谷保健所健康推進課こころと体の健康担当／係長
大神 あゆみ	大神労働衛生コンサルタント事務所／代表
佐野 信也	防衛医科大学校心理学学科目／准教授
竹内 和代	所沢市こども未来部こども支援課こども相談センター／主査
立花 正一	防衛医科大学校防衛医学研究センター異常環境衛生研究部門／教授
塚原 洋子	なごみ相談室／主宰
角田 智哉	防衛医科大学校防衛医学研究センター行動科学研究部門／助教
徳永 雅子	徳永家族問題相談室／室長
藤尾 静枝	支援者のための研究室 悠／室長
鷲山 拓男	とよたまこころの診療所／診療所長

(五十音順)

試行団体

---

北海道農業団体健康保険組合  
岩手県二戸市  
全国健康保険協会 宮城支部  
新潟県南魚沼市  
茨城県鉾田市  
茨城県つくば市  
千葉県君津健康福祉センター  
全国健康保険協会 東京支部  
一般財団 日本健康開発財団 J スクエア JTB 東日本健康増進センター  
静岡県農業団体健康保険組合  
産業保健師自主勉強会 (愛知)  
岐阜県岐阜市  
三重県志摩市  
三重県名張市  
三重県松阪市  
兵庫県姫路市  
愛媛県西予市  
高知県安芸市  
高知県四万十市  
佐賀県伊万里保健福祉事務所  
佐賀県中部保健福祉事務所

## オブザーバー

---

山田 敏充	厚生労働省健康局がん対策・健康増進課 保健指導室/室長
守屋 希伊子	厚生労働省健康局がん対策・健康増進課 保健指導室

## 事務局

---

担当理事	中板 育美	公益社団法人日本看護協会/常任理事
担当部署	村中 峯子	公益社団法人日本看護協会/健康政策部長
	坂田 祥	公益社団法人日本看護協会
	金丸 由香	公益社団法人日本看護協会
	亀ヶ谷 律子	公益社団法人日本看護協会

平成 25 年度 厚生労働省保健指導支援事業  
保健指導技術開発事業 報告書  
そうだ！事例検討会をやろう！“実践力UP事例検討会”  
～みて・考え・理解して～

---

発行日	2014 年 3 月 31 日
編集	公益社団法人 日本看護協会 健康政策部
発行	公益社団法人 日本看護協会 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 TEL 03-5778-8831 (代表) FAX 03-5778-5601 (代表) URL <a href="http://www.nurse.or.jp">http://www.nurse.or.jp</a>

---

※本書からの無断転載を禁じる





